

会議概要書

会議の名称	第5回 小学校再編準備委員会
日時	令和6年12月19日(木) 午後6時00分～午後8時40分
会場	市役所東庁舎2階 東大会議室
出席者	市教委：中村教育長、太田次長、飯島課長、渡邊課長補佐、春日 (下川教育委員、森教育委員、北澤教育委員) 8名 準備委員：別紙名簿23名
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 教育長あいさつ 3 会議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 校章の選定・校歌制作の経過について (2) 通学方法について (3) その他 4 その他 5 閉 会
主な意見等	<p>【通学方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者説明会のQ&Aから、徒歩通学範囲を直線距離1.5km未満とした場合についての質問の回答が2つあり、1つは、予算を確保するよう努力する。もう1つが、バスの台数・運転手が限られ全員乗車することができない。となっている。回答が違っていると思うが実際どうなのか。 <ul style="list-style-type: none"> → 委員会で、徒歩通学の直線距離が1.5km未満と決定したときの対応について、説明会で回答した。しかし、バス会社に確認し、スクールバスの範囲を直線距離2.0km未満とした場合、対象児童全員が乗車することは、バスの確保などの点で難しいと考えている。 ・ 確認したバス会社は、現在スクールバスを運行している、やまびこと北アルプス交通の2社のみか。 <ul style="list-style-type: none"> → 大町北部小学校については、現在、大町北小・大町中コースを運行している北アルプス交通に、大町南部小学校については、現在、大町東小コースを運行しているやまびこに確認した。 ・ 予算の都合がつくのであれば、市内外問わず他のバス会社にも願ひするという考えはあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> → 現在示している事務局案では想定していない。 ・ 個人の意見だけでなく、地区ごとの意見も聞いてほしい。地域ごとの考えもあり、とても参考になる。 ・ P T Aが実施したアンケートから、スクールバス通学の範囲を直線距離1.5kmとして欲しいという意見が多く出ている。この結果を受けて考えがあれば伺いたい。

- ・ 現在の大手市の遠距離通学用乗車証等交付要綱は、直線距離 2.5km 以上の児童・生徒がスクールバス通学できるようになっているが、今回示した事務局案では、直線距離 2.0km と距離を短くして提案させていただいている。
- ・ スクールバスに乗車できる通学範囲でも、徒歩で通学しても良い。
- ・ 地図ソフトで直線距離 2.0km 未満の児童について道のりの計測をしてみたが、最長で直線距離に 500～700m プラスされる程度であった。児童がこのルートを使用するとは限らないが、現状と比べても徒歩で通えるものと考えている。
- ・ 夏の暑さや冬の寒さが心配という意見もあったが、近隣の町村へ調査を行ったところ、小谷村・池田町は直線距離 2.0km 程度を目安に、白馬村は道のりで 3.5km、松川村は 1・2 年生が直線距離 2.5km、3～6 年生が直線距離 3.0km という回答をいただいた。これらと比較しても配慮した案と考えている。
- ・ 道のりではなく、直線距離で判断しているのはなぜかということだが、小学生が道のりで 4.0km、中学生が道のり 6.0km、通学時間が概ね 1 時間という国の目安がある。その部分も含め、直線距離 2.0km であれば、どちらも目安を超えないと考えている。
- ・ 神栄町地区で集まって話した内容をいくつかお伝えしたい。
 1. 通学路の危険箇所が出されていない。
 2. 歩道が狭く不安であり、冬には除雪がされるのか。
 3. 農免道路は交通量が多く、児童を歩かせるのは怖い。
 4. 子どもが少なく 1 人で登下校しなければいけない可能性がある。
 5. 推奨ルートがなく、どんなところを通学路点検で見ると分らないという懸念がある。
 という意見が出た。単純に直線距離ではなく、危険箇所や道の質も踏まえて特例を作ることを考えてほしい。
- ・ 大手西小学校の通学区で、大新田町が初めてスクールバス通学になる。地区の中で、徒歩とスクールバスの児童が出てくるが、通学方法を統一して欲しいという意見が出ている。柔軟な対応はしていただけるのか。
 - 保護者説明会で回答しているとおり、小学校再編準備委員会で協議して決定いただきたい。
- ・ スクールバス通学の対象となる児童であっても、必ずしも乗車しなくて良いとのことだが、その結果、大手中のときみたいに限られた人しか乗車しないスクールバスになる可能性がある。もっと乗車してもらるようにバス停やルートを考えて方が良い。
 - スクールバスの運行に当たり、対象児童・生徒全員が乗車できるよう計画する必要があるが、保護者からの申請により乗車証を発行しているため、満車になっていない状況である。バス停やルートについては、スクールバスの対象範囲が決定してから、より良

い意見を集めて決めていければと考えている。

→ ある程度基準が決まった後に、スクールバス通学についての意見を伝えたとした場合、距離の基準の緩和などについて、柔軟に対応していただけるのか。

→ 現在示している事務局案では、距離の基準の緩和について考慮していない。

- 子どもに聞いてみたところ、友達と徒歩で下校できるのは楽しいと言っていた。ボランティアや地域の方に通学路に立ってもらったり、通学路がどんな点検や整備がされているのかを周知した上で、意見を集めた方が良い。そういった条件であれば、直線距離2kmでもいいのではないか。
- 大町西小学校は、大新田町地区のみ、ボランティアと一緒に登下校をしてくれている。
- スクールバス通学について柔軟性が無さすぎる。もう少し保護者に寄り添った対応をして欲しい。
- 保護者説明会でのコミュニティバスの回答で、経路変更には時間がかかるとあるが、再編準備期間をもってしても経路変更はできないのか。
- 保護者の目線で、距離とかではなく、安全確保がされてから通学方法の基準を決めていくべき。特例や条件付という措置があっても良いと思う。地域、保護者の声を聞いてそれに見合った予算、バス台数を確保すべき。
- 現在の事務局案では、限られた台数で考えなければいけないということで話が進んでいるので決まらない。
- 白馬村はデマンドタクシーを使用している。大町市もスクールバス関係のアプリを開発して利用して運行を効率化してはどうか。
- スクールバス通学の基準は必要だと思う。ただ、1年生と6年生では、体格や社会経験も違うので配慮が必要。子どもたちのための再編事業なので、安心・安全の無い状態で開校するのはまずい。まだ時間があるので、対応できることは対応して欲しい。
- 地区単位で話をすると、安全な場所、危険な場所が分かってくるので良いことだと思う。ただ、地区で徒歩通学とスクールバス通学範囲が分かれるような話をすると、例えば、借馬と大新田町は地区の大きさが全然違うため同じにはしてはいけないと思う。
- 今回PTAアンケートを集計したが、各地区で考えを聞く場合、事務局から指示をしてほしい。例えば、直線距離1.5kmから2.0kmの間で今まで徒歩通学したことがない児童、スクールバス通学したことがない児童がいる地域に絞ってアンケートをしたらどうか。
- スクールバス通学の最初に乗車する児童の時間も考えて決定して欲しい。

- ・ 試乗会はいつ頃やるのか。通学方法の方針を決めてからやるのか。
→ 冬を越してから、再編準備委員会の中で案を出して試乗会をしたかどうかと考えている。
- ・ 保護者や地区からもっと意見をくみ取って、ここまではできる、この意見はこうだからできない、というのを伝え合った方が良い。
- ・ 先にシミュレーションや調査をした方が良い。準備委員が地区に投げるのか、事務局が投げるのか決めたい。
→ 先に試乗会をした上で集計を取った方が良いと思う。事務局内で検討する。
- ・ 通学方法に関して方向性が決まっていなかったが、試乗会などを実施し、意見を集約してから次回以降また検討するということよろしいか。
→ 了承
- ・ スクールバスの試乗会だけでなく、実際歩く通学路もシミュレーションが必要だと思うのでお願いしたい。
- ・ 通学方法を考えるための試乗会ということでもいいのか。
→ 危険な場所を必ず通らなければいけない場合、様々な対応を考える。
- ・ 大新田町地区が大町北部小学校へ通うとき、現大町西小学校を通り抜けても良いのか。
→ 教育委員会で管理しているうちは、通学路として通り抜けられることを想定している。

【その他】

- ・ 大町南部小学校校舎と大町北部小学校校舎のアピールポイントはあるか。
→ 大町北部小学校は、平成17年に建てた校舎で比較的新しく暖かい校舎になっているので、今回は建物内の部屋を中学校から小学校用に改修する。
大町南部小学校はすぐには改修できないが、令和7年度にトイレの改修を行うとともに、体育館の照明LEDなどの工事ができるよう予算要求している。こちらも快適な校舎になっていくよう努めていく。